

足立区議会議長 鹿 浜 昭 様

足立区議会議員 15 番 山 中 ちえ子 印

文 書 質 問 書

会議規則第60条の2第2項の規定に基づき、次のとおり文書質問書を提出します。

記

テ ー マ 及 び 質 問 項 目

1 竹の塚七丁目のまちづくりについて

『竹ノ塚駅高架化工事及び周辺のまちづくり』のうち、竹の塚七丁目では都営住宅建て替え事業が行われている。この地域を全体的に住みやすく駅へのアクセスが効率的な環境にしていく必要がある。

(1) 現在、既存の10, 11, 12号棟に狭い歩道を残して団地すれすれに設けられている重厚な囲いと鉄道高架の間の道路は、この都住が途切れる補助第262号線まで柵で閉ざされている。このことから、長い期間住民にとって閉塞感、不便感を強いている実態だ。住民からは救急車も通り抜けできない実態であり、火事・災害の際にはこの方向から逃げられない事が想定され不安視されている。

2013年7月から2017年9月30日まで東武鉄道が東京都都市整備局から賃借し高架化工事ヤードとして利用していたが、利用が終了した2年前の10月には一旦取り払われたが、すぐに再度囲いが設置されている。安全を確保しながら環境改善を行うべきではないか。

- ① 囲いを改善し10, 11, 12号棟沿いに残された狭い歩道を拡幅し、安心・安全な歩道に改善するべきだ。
- ② 工夫し緊急車両は通せるよう、都の担当課とも協力して対応し住民の安心・安全を図るべきだ。
- ③ 補助262号線沿いは簡易な柵が設置され空き地の柵もつながっている。そのため団地側から歩道に出る事ができない。通行の便を図るべきだ。
- ④ 団地北東側の空き地出入り口はあるが、未整備のため子ども達が伸び伸びと遊べる状況ではない。公園、もしくは防災広場として整備を。

以上の点について改善・実現を目指すと共に、関係機関に働きかけるべきと思うがどうか。

(2) 現在、東京都の土地を東武鉄道が借りて高架化工事のヤードとして活用している『竹の塚六丁目18』の土地は2024年まで利用予定だ。この土地を含む広大な仮囲いのある地域は、都営住宅側と駅を結ぶ大切な地域だ。しかし、この地域に鉄道側に出られる道が全くなく仮囲いだらけの狭いまちになっている。このことから、広大な仮囲

## 15番 山中ちえ子

### テーマ及び質問項目

いの土地が中心となり住民の暮らしが鉄道、駅方面から大きく隔たれてしまっている。せめて工事中であっても安心・安全を図りながら、精神障がい者自立支援センター「ふれんどりい」の北側の広大な空き地の仮囲いを開けて帰郷してくる子ども・孫達も楽しめる「お正月凧あげスペース」やお買い物に困っている高齢者のための「野菜、スイーツの市場マルシェ」等としてイベントに開放する等、関係機関とともに協力し広々と賑やかな街にするべきではないか。

### 2 違反生コン工場の問題解決について

この違反工場については、昭和30年代に無届け建築で生コン製造販売を始め、昭和48年に土地用途が住居地域に指定されたことで、近所の工場が移転を決めざるを得ない状況となった際にも居座り続け、しかも、平成3年の区画整理事業では、移転補償され現位置換地まで保障されてしまった工場だ。更に、平成14年には、拡張工事までしている。昨年2018年1月にはコンクリート素材の圧縮器の摩耗、傷が原因とされる粉じん爆発事故を起こした。

現在、区は建築基準法第12条第5項に基づき工場側に文書で指導、再指導を繰り返している最中であるが、「移転先を八潮方面に土地を検討」との回答も引き出す一方、今だに「移転には7億円もの資金がかかる。工場は既得権があるから今は移転ができない」との趣旨で回答し生コン工場は営業が継続されており、住民がないがしろにされている。今も、住民の暮らし環境への影響や子ども達等の通学時間において、大型車両による事故のリスクが指摘されている。

この住宅地が用途地域通りに静かな暮らしを取り戻し、子ども達が安心して通える通学路、過ごせるまちとなることを願って質問する。

- ① 区は「建築基準法第9条第1項の是正『撤退』命令は区の方針としていない」というが住民は納得していない。住民との話し合いを誠実に行うべきではないか。また工場側に「移転計画」を引き続き提出させる働きかけを強く行うべきではないか。
- ② 現在、工場は警察への許可申請が許可され、通学時間であってもお構いなしに朝7時から8時までの一時間中だけでも大型車約25台も通行、工場の出入りをしている。工場の正面玄関、公園側の出入り口からの大型車両の出入り、及び、周辺の交差点などを通学時間である7時40分から8時半までは通行止めとする事を指導するべきではないか。
- ③ 歩行者から付近の檜の木公園前交差点において『交差点を右折する大型車に轢かれそうになった「ヒヤッ」とした』との声が「花畑を住みよくする会」の連絡先に今年10月電話があった。

この交差点は、2年後の開通予定としている「大鷲さくら橋」の延長線だ。開通により大型車両が更に増えるのではないかと危惧されている。巻き込み事故の危険性を少しでも少なくするために早急に、既存の信号を歩者分離式に改善されるよう区か

15番 山中 ちえ子

テーマ及び質問項目

ら強く求めるべきではないか。

- ④ 子ども達の通学時、高齢者などの事故リスクを少しでも低くするための緊急的な対策としては、交通安全誘導員を工場側からさらに増員させ、檜の木公園前交差点にも数人配置するよう強く働きかけるべきではないか。